

平成28年度 上山高原自然再生協議会 次第

日時 平成29年3月12日（日）16時00分～

場所 上山高原ふるさと館 2階会議室

1 開 会

2 あいさつ（協議会会長）

3 議 事

- (1) 協議会構成員について
- (2) 平成28年度自然再生協議会全国会議の報告について
- (3) 平成28年度自然再生事業について
- (4) 平成29年度自然再生事業（予定）について
- (5) その他

4 閉 会

<配布資料>

- 平成28年度自然再生協議会全国会議について
- 平成28年度自然再生事業について
- 平成29年度自然再生事業（予定）について
- 上山高原自然再生協議会設置要綱

平成28年度 上山高原自然再生協議会 会議録

- 1 日 時 平成29年3月12日（日）16時00分～17時00分
- 2 場 所 上山高原ふるさと館 2階会議室
- 3 内 容

(1) 会長挨拶

この会は、幅広い主体の参画のもと、地域に根ざした上山高原の自然再生を推進するため、必要となる事項の協議・決定する会として設置している。

「全国草原サミット・シンポジウム」が、この上山高原で開催され、武田先生にも「草原の再生と生物多様性」についてご講演いただいた。

三谷さんによるイヌワシ調査では、11月に2羽のイヌワシの飛翔が確認された。繁殖を期待するのは時期尚早であるかもしれないが、これまで14年間実施してきた自然再生の成果であると考えている。

(2) 議事

① 協議会構成員について

構成員である兵庫ウスイロヒョウモンモドキを守る会の近藤伸一氏におかれては、協議会設置要綱第7条第1項の規定により、事務局に対して書面をもって辞任したい旨連絡があったので、これを認めることとしたい。（事務局）

→ 各構成員から異議なし

② 平成28年度自然再生協議会全国会議の報告について

- ・ 10月25日・26日の2日間、島根県松江市で実施され、当協議会からNPO中村副代表と県自然環境課 橋本が出席した。
- ・ 中海自然再生協議会の事業地を視察するとともに、分科会において、「生態系サービスを活用した地域づくり」について話し合った。（以上事務局）

③ 平成28年度自然再生事業について

- ・ 新規ススキ草原整備事業では、7月に旧牛道沿い2.3haのササ刈りと、10月～11月に1.7haの新規伐採を実施した。
- ・ 既存ススキ草原維持管理作業では、4月に山焼き、7月に手刈り、7月～10月に牛放牧を実施した。
- ・ 楽天の森事業では、9月に草原北側二次林約1haの皆伐を実施した。
- ・ 今年度は新たな試みとして、11月～12月に茅刈りを実施した。
- ・ モニタリングについては、報告会で報告があったとおりである。（以上事務局）

局)

→ 茅刈りについては、刈るのは簡単だが、束ねてトラックに運ぶ作業に労力が必要であった。また、乾燥保管場所は風が入る場所で、茅が倒れて苦勞した。次年度はいろいろと工夫したい。(NPO)

④ 平成29年度自然再生事業(予定)について

- 新規ススキ草原整備事業については、今年の北側2haの伐採を引き続き実施する予定である。
- 既存ススキ草原維持管理作業については、例年どおりの実施予定である。(火入れ4月、牛放牧7月～10月、手刈り7月頃)
火入れについては、雪が残ると思われ、状況を見ながらになる。
- その他事業としては、楽天の森事業1ha皆伐を9月頃に、茅刈りを11月～12月頃に実施する予定である。
- モニタリングについては、報告会で報告があったとおり、動植物モニタリング及びイヌワシ調査を引き続き実施する予定である。(以上事務局)
→ 火入れについては、できれば10ha程度できればと思っている。(NPO)
→ 毎年事故があるので、十分に安全管理をしながら、面積について検討したい。(事務局)
→ 牛放牧の場所については、検討が必要である。上の方(広場の近く)でやりたいと考えているがどうか?(NPO)
→ 上の方は、過去に連続して放牧したため、ワラビが多く植生が復活していない。検討が必要である。(専門家)
→ 場所については、植生の状況を見ながら今後検討する。(事務局)

⑤ その他(意見交換)

- 茅刈りの場所については、人数を集めて日を決めてやる必要がある。11月には雪が降る可能性があり、もう少し早くできたらという思いがある。昔は海上集落では、雪囲いとして使い、次の年に使うということもしていた。(NPO)
- サンショウクイが琉球亜種である可能性があるとのことであるが、植物はどのような状況か?
→ 植物は今のところ大きな変化はない。(専門家)
→ 例えば、六甲のブナは気温上昇に対応できないかも知れないが、上山周辺は大丈夫か?(NPOアドバイザー)
→ 上山では現時点では特に問題にならないだろう。(専門家)
→ 山陰のブナは標高が低くても生育している。(NPO)

- シカの生息状況について、大雪の影響などは分かるか？（NPOアドバイザー）
 - 期待をしているが、現時点では分からない。神鍋では足跡が少なくなっているとのことである。（但馬県民局）
 - 環境省でも5年で半数にするということで予算を付けており、活用されたい。（環境省近畿地方環境事務所）